

ちばだい プレス

CHIBADAI
PRESS

千葉大学
広報誌

2022

VOL.

61

AUTUMN



特集

世界最先端の研究から
社会貢献まで

千葉大学 OBOGインタビュー

研究室訪問



CHIBA UNIVERSITY

世界最先端の研究から

— 千葉大学が取り組む研究の“推進”と“発信” —

千葉大学では、2021年に策定した「千葉大学ビジョン」に基づき、多様な支援や人材育成などを含む研究推進と、世界に向けた発信に力を入れています。この特集では、研究担当理事としてその先頭に立つ藤江幸一理事へのインタビューのほか、国際高等研究基幹やCHIBADAI NEXTといった最新トピックについても紹介します。

— 2021年7月の「千葉大学ビジョン」策定から1年強が経ちました。実現に向けた取り組みを教えてください。

「千葉大学ビジョン」には4つの項目がありますが、そのうち研究に直接関連する項目は、「国際頭脳循環の中核として世界最先端の研究を展開」と「社会に大きく貢献する千葉大学」の2つです。前者は、最先端の研究で成果を挙げ、論文や技術シーズを生み出す「大学価値の創出」、後者は、そうした研究成果からイノベーションを創出し、社会実装を目指す「社会価値の創出」と言い換えてもいいでしょう。千葉大学には、世界的に高い評価を得ている研究成果が数多くあり、現在も成果を生んでいます。こうした価値を社会に共有してイノベーション創出や課題解決などに貢献するのが、「千葉大学ビジョン」の基本的な考え方であり、それを推進する役割を2020年4月に設置された学術研究・イノベーション推進機構「IMO」が担っています。

— IMOの具体的な役割や意義を教えてください。

イノベーション実現のためには幅広く外部と連携・協働することが必須であり、IMOでは産官学に公(自治体)と金(金融機関、ベンチャーキャピタルなど)も含めた共創を推進しています。大学の研究成果に基づく知的財産や技術シーズは、産官学公金が連携することで社会実装が進みます。論文発表でとどまるのではなく、社会実装を目指すよう教職員のマインド変革を推進するのも、IMOの大きな役割だと考えています。また、これからの大学は経営的な視点がより必要であり、その点でも研究力向上のための支援は不可欠です。研究の質と量の向上は、一層の科研費(科学研究費補助金/学術研究助成基金助成金)、受託・共同研究費や特許のライセンス料の獲得などに繋がります。結果としてさらに大学の評価や知名度、そして研究力が向上するという好循環をもたらします。

— IMOの仕組みについて教えてください。

IMOには、研究そのものを推進する「学術研究基盤支援部」、社会実装に向けた支援を行う「プロジェクト推進部」、知財や技術シーズを管理して民間企業などとマッチングする「知財・技術移転部」が設

置されています。ここで重要な役割を果たすのが、「URA(University Research Administrator)」という役職です。教員の研究テーマを正しく理解して評価し、知財や技術シーズを見出し、社会実装への道筋をつけるのがURAの役割。教員とURAが協力することで新たな価値を生み出すことにもなりますし、教員のモチベーションも高まっていると感じます。

— これまでの取り組みを通じて、どのような実績や効果が生まれていますか。新しいトピックなどもあれば教えてください。

多くの研究が世界的に高い評価を得ています。技術シーズの実用化が増加し、保有特許数や技術移転率の向上をもたらしています。現在、基盤的研究費の獲得とスタートアップ支援には特に力を入れています。より上位種目の科研費への応募件数が増え、採択件数および配分金額が増加しています。また、IMOでは毎年、学生・教職員を対象とした起業コンテスト「なのはなコンペ」を開催しております。2022年度開催の第20回では後援団体からの各賞に加えて、上位入賞グループにはGAPファンドとも言える試作や性能試験などのための資金提供も開始しました。

次世代を先導する中堅・若手研究者の育成を担う「国際高等研究基幹(IAAR)」が2022年度にスタートし、新たな価値の創出による社会・経済の発展に貢献する世界的なイノベーション研究拠点化を目指しています。千葉大学の研究を世界に向けて発信するオウンドメディア「CHIBADAI NEXT」もスタートしました。私たちが目指す研究推進と社会貢献の好循環が回り始めていていると感じています。

— 最後に、千葉大学のポテンシャルをどう感じているかを教えてください。

私が千葉大学に赴任したのは2021年。それ以前は他大学から千葉大学を見させていただき、うらやましく思っていました。10学部17大学院を擁する総合大学であり、地理的にも東京に近いというアドバンテージがあるからです。研究分野がこれだけ幅広いのですから、全学的にアイデアを持ち寄ればオンリーワンの研究を生み出すことも可能ですし、地の利もある千葉大学のポテンシャルは計り知れません。実際に自治体や金融機関、企業、NPOといった各方面との連携も進んでいますし、千葉大学発の産官学公金プラットフォームを育てていければ、世界的にも存在感を示せるのではないかと期待しています。

INTERVIEW

学術研究・イノベーション推進機構
藤江 幸一 機構長(研究担当理事)

社会貢献まで

国際高等研究基幹

Institute for Advanced Academic Research: IAAR



IAARのキックオフシンポジウムを開催しました！

2022年7月27日、学長主催講演会シリーズの第2回目として「千葉大学から世界へ—新たな知の創出と価値の創造—」と題し、IAARの研究支援プログラムで展開される最先端研究の一端を紹介するシンポジウムを開催しました。

2022年度に同プログラムに採択された20名の教員（推進リーダー）が登場し、自身が取り組む研究概要を紹介しました。対面・オンライン併用での開催で、およそ200名が参加しました。



オンデマンド配信
シンポジウム当日の様子の一部をオンデマンド配信しています。ぜひご視聴ください。

国際高等研究基幹 (IAAR)とは？

IAARは、2021年7月に策定した「千葉大学ビジョン」に掲げる『国際頭脳循環の中核として世界最先端の研究を展開』の実現・加速化に向け、2022年4月に発足した組織です。

IAARのことをもっと知りたい方はこちらをご覧ください！



IAARの公式ウェブサイト
IAARが支援する研究計画や研究者の情報を掲載しています。

研究人材の育成

中堅・若手研究者のさらなる飛躍を支えるため、研究環境の整備を行い、研究者のキャリアに応じてシームレスな支援を行います。



01 卓越した研究者集団の形成

優れた研究業績を挙げている中堅・若手が引き続き活躍できるよう、安定した研究環境を提供し支援しています。

02 テニュアトラック准教授の採用

千葉大学内・外で活躍している若手教員をテニュアトラック准教授として採用します。採用後の研究成果が認められることによりテニュアポジションの取得が予定されています。

注)テニュア研究者とは、その優秀さをもって終身雇用資格を得た研究者であり、テニュアトラック研究者とは、任期内に審査を経て終身雇用資格(テニュア)を得るために任用された研究者である。

03 特任助教の採用

千葉大学大学院の博士号取得者や日本学術振興会特別研究員などで活躍している優秀な若手研究者を特任助教として採用し、研究者としてのキャリアパス形成を支援しています。

園芸植物は人との関わりが深く様々な興味深い現象が知られていますが、そのメカニズムは不明な点が多いです。統計遺伝学(情報解析)と分子遺伝学(生物実験)を融合したアプローチによって園芸植物のゲノムを巨視的あるいは微視的に眺めながら、園芸植物の遺伝的なメカニズムの解明と画期的な新品種の創出を目指したいと考えています。



国際高等研究基幹(園芸学) 南川 舞 特任助教

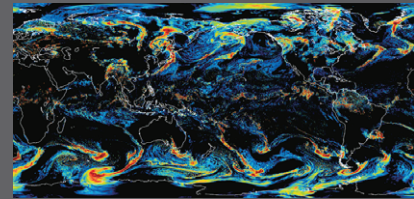
研究支援プログラム

研究者が推進する研究を加速・充実させ、優れた研究成果を創出するとともに、大型研究費の獲得や研究拠点の形成を目指すことを目的とし、2つの研究支援プログラムを開設しました。

01 学際的先端研究支援プログラム

学理・真理を探究し新たな研究領域の開拓を目指す意欲的な研究課題および基盤的研究の向上に貢献するプログラムを支援します。

ex. 衛星ビッグデータとデータサイエンスの統合による地球環境・災害予測研究の新展開 (国際高等研究基幹 教授 小槻 峻司)



衛星観測ビッグデータを、深層学習を始めとするデータサイエンス技術により統合し、気象環境・災害予測研究の抜本的深化を図ります。

ex. ニュートリノが拓くマルチメッセンジャー天文学研究拠点形成 (ハドロン宇宙国際研究センター 教授 吉田 滋)

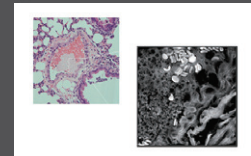


ニュートリノ観測能力の大幅な向上を図ると共に、マルチメッセンジャー天文学を確立し、ハドロン宇宙国際研究センターの世界的な中核研究機関としての飛躍を目指します。

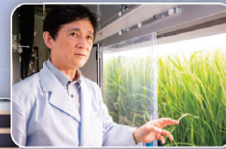
02 社会価値創造研究支援プログラム

研究活動によって生まれた成果の社会実装を通じて、新たな未来社会の社会変革をもたらすことを目指す意欲的な研究課題を支援します。

ex. 未来粘膜ワクチン・アレルギー治療学国際研究拠点における粘膜ワクチン・免疫療法開発 (医学研究院 教授 中島 裕史)



アレルギー疾患や多様な呼吸器感染症を標的とする粘膜ワクチン開発の礎となる基盤研究を推進し、その成果をもとに臨床応用・社会実装を目指します。



英語版も続々公開

日本語版のみならず、一部の記事は英訳し、英語版ページにまとめて掲載しています。今後も続々と記事を掲載し、国内のみならず、海外にも千葉大学の研究成果をアピールしていきます。



このほかにも

「#中山学長特別企画」や一般の方が参加できるイベントの紹介など幅広いコンテンツを公開中!

千葉大学と社会をつなぐ、研究の魅力発信オウンドメディア



CHIBADAI NEXT

年間50本程度のコンテンツ公開を予定しています。



日本語版



英語版

CHIBADAI NEXTはこちらからご覧いただけます!

#CHIBADAI ストーリー

千葉大学の様々な研究や産学連携事例の紹介、時事解説などを行うコーナーです。最先端の研究でも一般の方にわかりやすく、そしてそれぞれの研究者の「顔」が見えて身近に感じていただけるような記事を発信しています。



CHIBADAI NEXTとは？

CHIBADAI NEXTは、2022年6月に新たに開設した、千葉大学の各分野の最先端の研究内容や研究者などの情報を広く社会に発信するメディアです。これまでも大学の公式ホームページや、学会発表、本学主催の講演会・イベントなどで研究成果を発信してきましたが、このメディアを通じてより一層研究発信力を高め、産業界、他大学、公的研究機関、地方公共団体なども含めた幅広い連携の促進を目指します。

地域を舞台に、障害者や生活困窮者、子どもなど
社会的弱者の支援に取り組んでいる飯田大輔さん。
ユニークなネーミングが気になる「恋する豚研究所」の設立経緯、
福祉の道を選んだ理由やこれからの夢、学生に向けた
メッセージなどを語っていただきました。

障害のある人の仕事をつくる 「恋する豚研究所」を設立



—福祉楽団の概要を教えてください。

飯田 私が理事長を務める福祉楽団は、2001年に設立した社会福祉法人です。楽団という名前ですが、音楽事業はやっていません。オーケストラは、周囲と協力して自分が担当する音を奏でるといって民主的な社会や福祉の理想的なあり方に通じると感じてこの名前を付けました。設立してすぐに特別養護老人ホームを開設し、現在は障害のある人の就労支援や生活困窮者の自立支援、「子ども食堂」など対象者や分野にとらわれない事業を行っています。2012年には、障害のある人や、少年院からの出院者の就労支援を行うため、千葉県香取市に「恋する豚研究所」を開設し、精肉の卸売りや、ハムやソーセージの製造をしているほか、しゃぶしゃぶを提供する食堂も運営しています。

—恋する豚研究所を設立した理由は何でしょうか。

飯田 「クロネコヤマト」の宅急便を開発した小倉昌男さんが「福祉を変える経営」という本を出版したという話をラジオで聴いてすぐに本屋に走りまわりました。帯には「月給1万円からの脱却」と書いてあって、障害者の平均賃金の低さに衝撃を受けました。福祉にも経営的な視点を取り入れて、障害者がきちんと稼げる仕組みをつくるのが大切だと説いていて、すごく腑に落ちたんです。また、機会があって少年院の視察に行ったとき、少年院に入っている子どもの約半数が「障害者」であることを知り就労支援の重要性をさらに感じました。小倉さんは「スワンペーカーリー」というパン屋をつくって障害者の仕事をつくりましたが、私の場合は祖父が養豚をやっていたことや、豚肉が千葉県の特産品であることなどから、豚で仕事がつくれると考へて「恋する豚研究所」を設立しました。精肉の販路開拓では苦労もありましたが、現在では大手食品会社や百貨店とも取り引きできるようになってきています。食堂や直売所は、香取市の観光スポットとしても知られるようになり、県外からもお客様がいらっやっています。

千葉大学に縁のある師と出会い 福祉の哲学を学ぶ

—福祉の道に進んだ理由とその後の経緯を教えてください。

飯田 福祉は成り行きです。農業に興味があったので、大学は農学部を選んだのですが、大学3年のときに母が亡くなったことが人生の分岐点になりました。母は生前、社会福祉法人の設立準備を進めていて、すでに認可が下りていたので取り下げることができず、いわば母の遺志を継ぐ形で福祉法人の立ち上げに携わりました。とはいえ、福祉についてはまったくの素人なので、福祉を学べる大学で改めて学びなおしました。介護の勉強をするなかで、千葉大学の看護学部創設に携わった薄井坦子先生の「科学的看護論」を読む機会があり、介護も看護も同根の歴史を持ち、「科学」とし



母親の遺志を継いで福祉の道へ。
目指しているのは
誰もがその人らしく生きる
コンヴィヴィアルな地域社会

飯田 大輔 (いいた だいすけ)
株式会社恋する豚研究所代表取締役、社会福祉法人福祉楽団理事長。東京農業大学農学部卒業。日本社会事業大学研究科修了後、社会福祉法人福祉楽団を設立。社会人として働きながら千葉大学大学院人文社会科学研究所で博士前期課程を修了。2012年、株式会社恋する豚研究所を設立し、代表取締役に就任。

株式会社恋する豚研究所代表取締役
社会福祉法人福祉楽団理事長

飯田大輔

さん

て捉えることに気づかされました。特別養護老人ホームでの仕事を続けながら千葉大学の看護学部に入學し、ケアについて勉強しました。そのときに、西千葉キャンパスで「社会保障論」を担当されていた廣井良典先生*の「ケア学」という本を読んで共感し、先生を訪ねるうちに、千葉大学大学院人文社会科学研究所に進むことを決意しました。

—千葉大学で印象に残っているエピソードはありますか。

飯田 廣井先生から個別指導を受けた記憶は薄いのですが(笑)、10万字の修士論文を提出した翌月に、「専門誌に掲載するから8千字に要約するように」と言われました。出版されることに緊張して大変な作業でしたが、あれが修了前の「口頭試問」だったのだらうと思っています。廣井先生からは、広い視野で物事を見て、一つの実践に移すことの大切さを教わりました。哲学にまで踏み込んで福祉を学べたことは、現在の自分の行動基準にもなっていると思います。

*現在は京都大学に在籍

児童養護施設の創設を準備中 普通の暮らしができる家をつくる

—今後の夢や目標について教えてください。

飯田 これからの地域社会のキーワードは「コンヴィヴィアリティ(Conviviality)」だと思います。自立共生などと訳される言葉で、個性を尊重し合いながら助け合える関係を指しますが、楽しむというニュアンスがあるのがポイントです。今、新たに取り組んでいるのは、虐待された子どもなどの社会的養護の分野で、2024年に千葉県習志野市で児童養護施設を開設するために準備を進めています。福祉政策では、子どもの分野が最も立ち遅れていますので、普通の家のような暮らしができる児童養護施設をつくればと思って勉強しています。

—最後に、学生へのメッセージをお願いします。

飯田 「Think Globally, Act Locally」という言葉を贈りたいです。千葉大学はグローバル人材の育成に力を入れていると聞いていますが、若いときにいろいろな場所に行って多様な価値観に触れることは、その人らしく生きることを認めていくことにつながります。世界を見つても、小さくてもいいのでアクションにすることが重要です。海外に出てバリバリ活躍することだけが答えではありません。コロナ禍で物理的な移動の難しい状況が続きましたが、多くの人に会い、社交の経験を積むことが代えがたい成長につながると思います。



独自の発酵飼料で育てた豚肉の味を楽しむ「恋する豚のしゃぶしゃぶ定食」。この他に、「恋する豚のロース肉塩コショウ焼き定食」や「8種の野菜と恋する豚のステーキハンバーグ定食」が定番。



食堂に併設されている直売所では、オリジナルのポン酢や地域の農家が作った農産品も販売されている。

活躍する選手を見るのがやりがい。
故障を予防しコンディションを整えることで
アスリートの能力を引き出す

スポーツドクター
日本サッカー協会診療所院長

土肥 美智子 さん



女性スポーツドクターの先駆者として
日本代表チームやアスリートをサポートし、
幕張の日本サッカー協会診療所の院長も務める土肥美智子さん。
スポーツドクターを目指した経緯ややりがい、
学生に向けたメッセージなどを語っていただきました。

土肥 美智子(どひ・みちこ)

スポーツドクター、日本サッカー協会診療所院長。千葉大学医学部卒業。卒業後は放射線診断医として東京慈恵医科大学に勤務するかたわら、主にサッカーのスポーツドクターとしての活動を始める。2002年以降は国立スポーツ科学センターに所属し、2020年には兼務する形で日本サッカー協会診療所院長に就任。北京オリンピックから4大会にわたり日本選手団のチームドクターを務め、東京大会では、新型コロナウイルス感染症対策の責任者としても活躍した。

スポーツドクターとして コロナ感染対策においても貢献

— スポーツ医学とはどのようなものですか。

土肥 スポーツには怪我がつきものなので、もともとは治療やケアを行うのがスポーツ医学でしたが、現代はこれに加えて、怪我や病気を未然に予防したり、より良いパフォーマンスを発揮できるようにコンディションを整えたりすることが重視されています。また、栄養学、運動生理学、さらにはメンタルケアなど、幅広くアスリートをサポートする分野を含みます。チームスポーツであればチームスタッフとして帯同するケースもありますし、国際的なスポーツの大会であればメディカルオフィサーとして大会の医務をサポートするような場合もあります。— スポーツドクターならではの特徴ややりがいを教えてください。

土肥 一般の医療では医師が中心ですが、スポーツの場合は選手本人やチームの監督が主役なので、チームスタッフの一員としてサポートするのがスポーツドクターならではの特徴です。やりがいに感じるのは、ドクターというプロとしての役割を果たすことで、選手の活躍を見ることができる点です。特に今はコロナ禍。私がサポートするサッカー界でも、試合を実施するかどうかの難しい判断を迫られることもありましたが、検査や感染対策を徹底してクラスターの発生を防ぎながら試合を行うことができました。スポーツドクターとしての経験や知識を総動員して貢献できた2年半だったと思います。また、過去に比べると、スポーツ選手の社会的な評価も高まっており、スポーツドクターのニーズや役割もそれだけ高まっています。そういう面でもやりがいを感じます。

恩師の勧めで選んだ放射線科で 診断の経験を積み重ねる

— スポーツドクターを目指した理由を教えてください。

土肥 私は小中高一貫のカトリック系の高校出身で、シスターたちの活動を見てきたこともあって、早い段階から医療の道で人助けがしたいという気持ちがありました。千葉大学医学部を選んだのは、受験科目の配点が自分にとって有利であること、東京の自宅から通えることなどが理由です。大学受験が終わって、勉強に対する熱意を失いかけた時期もありましたが、これからずっと学び続けられるのは何かと考えたときに、スポーツ医学が頭に浮かびました。私自身、高校ではバスケットボール部、大学ではヨット部に所属してスポーツが好きだったので、好きなことなら一生関わっていけると思ったからです。— 大学卒業後は放射線科医として勤務されたそうですね。

土肥 当時、スポーツドクターは定義もあいまいで、市民権を得ているとは言えない状態だったため、千葉大学を卒業後、スポーツ外来を開設していた東京慈恵医大の先生を訪ね、そのまま同大学で放射線科医に

なりました。放射線科を選んだ理由は、その先生から「どんな科のドクターになるにしても、診断は全ての科において基本であり重要である」と勧められたからです。この大学ではX線や超音波を用いた検査の診断を行うのは放射線科でした。また、ちょうどこの時期にMRIが登場し、骨だけでなく筋肉や靭帯の状態を診断できるようになったことで、「スポーツ医学の診断がこれで変わる!」と思ったことを記憶しています。スポーツドクターは現場での判断力が問われるので、この時期に診断の経験をしっかり積んだことが役立ちました。

幕張の日本サッカー協会診療所と 千葉大学との連携を深めたい

— 今後やってみたいことはありますか?

土肥 私のキャリアも30年を超え、これからは後進の育成に力を入れたいと考えています。この30年でスポーツ医学はかなり進歩しましたし、認知度も高くなってはいます。けれども、まだまだ成熟と言えるまでには至っていませんし、スポーツドクターだけで食べていけるのはごく一握りです。スポーツドクターは医療のプロですから、報酬も含めてプロフェッショナルとして活躍できるような仕組みづくりができればいいと考えています。特に私が注目しているのは、女子スポーツの世界です。世界で結果を出している種目も増えていきますし、それに伴って女性のメディカルスタッフのニーズも高まっているので、女性スポーツドクターの活躍の場を広げるような貢献をしたいと考えています。それからもうひとつ。私が院長を務める日本サッカー協会診療所は千葉市の幕張にあり、同市内にある千葉大学病院とは協定も締結していることから、医療面での連携ができています。こうした連携は今後も広げていきたいと思っています。— 最後に、学生へのメッセージをお願いします。

土肥 大学で過ごした時間や友人は、人生を振り返ったときにありがたみがわかります。千葉大学のいいところは、総合大学なので多様な学部の学生同士の交流が可能な点です。私自身、大学時代は全学のヨット部に所属しましたが、医学部以外の学生と知り合ったことで、視野が広がったように思います。当時の友人とは先日も一緒にゴルフに行きましたし、千葉大学での恩師は私がスポーツドクターを目指して慈恵医大に移るときに「もしダメだったら戻ってほしい」と励ましてくれました。人の縁を大切にしながら大学生活を送ってください。



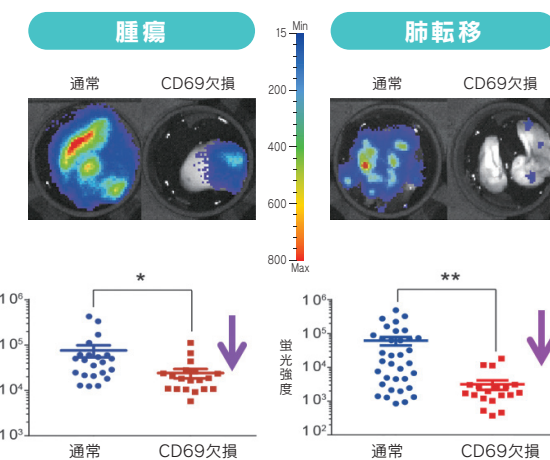
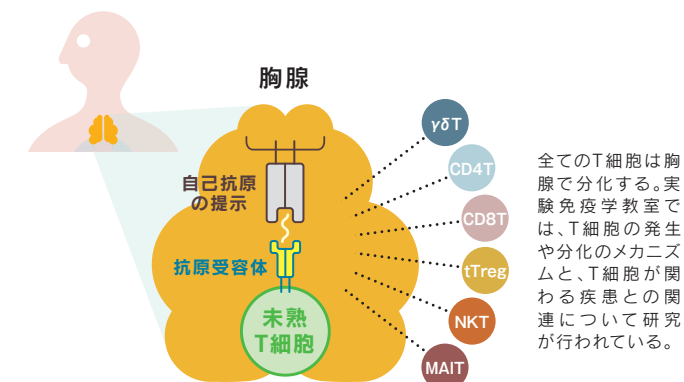
日本サッカー協会の診療所院長を務める土肥さん。同協会の医学委員会のメンバーでもあり、アンチ・ドーピング部会の部会長を務めるなど、アスリートのサポートに取り組んでいる。2018年開催のFIFA WORLD CUPにはチームドクターとして参加。

免疫研究を通して千葉大学独自のがん免疫療法の開発を目指す

大学院医学研究院 先端研究部門 高次機能治療学研究講座
実験免疫学教室



生命の仕組みへの興味から免疫学と出会い、以来、一貫して免疫に関する基礎研究を続けている木村元子教授。中山学長との縁や免疫研究の魅力、最新の研究成果などについて話を伺いました。



CD69欠損マウスでの実験結果。腫瘍の増大や肺への転移が抑制されていることがわかる。千葉大学ではこの結果をもとに、独自のがん免疫療法を開発中。

研究テーマについて教えてください

研究室名にあるように、実験を通して新たな免疫システムの発見とそれを利用した疾患の制御を目指しています。免疫研究には幅広いテーマがありますが、そのなかで私が取り組んでいるのが、T細胞についての研究です。T細胞は免疫の司令塔とも言われ、私たちの体を守るのに欠かせない大切なものですが、その働きに異常をきたすと、アレルギーや自己免疫疾患の発症、腫瘍形成の原因にもなり得ます。T細胞の分化や機能メカニズムを解き明かすことは、新たな治療法につながる可能性を秘めています。

現在、特に注力しているのは、免疫本来の力を利用してがんを攻撃する治療法である「がん免疫療法」の開発に関する研究です。免疫システムは、体内に入ってきたウイルスなどの異物を攻撃して自分を守る事が知られていますが、T細胞はがん細胞から絶えず刺激を受けると、疲弊して機能しなくなるという特徴があります。これに対し、CD69というたんぱく質を人為的に欠損させたT細胞を用いると、疲弊が起こりづらく、がんを攻撃する力を高めることでがん細胞の増大を抑えられることが実験でわかってきました。現在はこの研究を応用した千葉大学独自のがん免疫療法の確立を目指しています。

また、これ以外にも、胎児期につくられた特別なT細胞がどのような役割を担っているかを解き明かす研究など、新たな免疫システムの発見を目指した研究にも取り組んでいます。

免疫研究の魅力は何ですか

誰も知らない現象や仕組みを発見できることが大きな魅力です。私は大学時代に生命科学を学び、そこで免疫学に出会いましたが、最初から免疫を研究しようと思っていただけではありません。もともと生き物や自然に興味があったので、生命のメカニズムに関することを学びたいという気持ちで東京理科大学に入学し、たまたま私が在学

中に生命科学研究所が設立されたことで、免疫を研究する機会に恵まれたのがきっかけでした。この研究所の立ち上げに関わっていたのが、千葉大学出身で免疫学の世界的権威である多田富雄先生と、現千葉大学長の中山俊憲先生。そういう意味では、私が免疫学を志した時点で、千葉大学とは深い縁があったのだと思います。

免疫学に出合って以来、一貫して免疫研究に携わっていますが、免疫システムは驚くほど精緻で、知れば知るほど新たな発見があり、奥が深い学問です。私は実験を通じた基礎研究を行っていますが、先ほどのがん免疫療法の例のように、研究成果がいずれ人の役に立つと思うと、研究者と

してやりがいを感じます。

学生へのメッセージをお願いします

研究者を志すなら、興味のあることや好きなことを見つけて、貪欲に取り組むことが重要です。そのうえで、人との縁を大切にしてください。私の場合は、学生時代に会った多田先生と中山先生に免疫学研究へと導いていただきました。また、千葉大学で博士課程を修了した後に8年間留学した米国国立がん研究所では、議論する重要性を学びました。私は研究室の学生たちにどんどん意見を言うように指導していますが、これは米国留学の経験があったからです。もし相手と違う意見でも、お

互いの意見を伝えることで相互理解も進みますし、視野も広がります。ぜひ積極的に人と関わってください。



木村 元子(きむら・もとこ)

千葉大学大学院医学研究院教授。東京理科大学基礎工学部卒業。同大学大学院生命科学研究所修士課程、千葉大学大学院医学研究院博士課程修了。米国国立がん研究所留学を経て、2014年に千葉大学赴任。2021年より現職。

INNOVATION

新型コロナウイルス感染症の重症化メカニズムを解明

医学部附属病院は2022年8月1日に、新型コロナウイルス感染症の重症化メカニズムを解明する臨床研究の成果を発表しました。本臨床研究で、新型コロナウイルスが肺の血管へ直接感染することで引き起こされる血管の傷が血栓形成の原因となり、



左から岩村千秋特任講師、平原潔教授

それに伴って放出されるMyl9が重症化判定および予測マーカーとなることを明らかにしました。今後は企業と連携し、血中Myl9濃度の簡易測定キットの開発や新規治療法の開発を進めています。

INFORMATION

「千葉大学未来粘膜ワクチン 研究開発シナジー拠点」を設置

2022年10月1日、「千葉大学未来粘膜ワクチン研究開発シナジー拠点」を設置しました。従来のワクチンでは困難であった粘膜免疫を誘導でき、感染阻止と重症化回避の効果を合わせ持つ「粘膜ワクチン」の開発などを推進します。さらに、呼吸器感染症をターゲットにした



左から、川上副拠点長、中島副拠点長、中山学長、清野拠点長、木山副拠点長、斎藤副拠点長、藤橋拠点長特別補佐

経鼻ワクチンや腸管感染症の予防を目指す経口ワクチンの開発を中心に、研究部門・附属病院・企業との連携による安全・安心なワクチンの実用化を目指します。

INFORMATION

千葉大生が日米学生会議の日本代表の一人として訪米！

国際教養学部3年生の朝倉菜名子さんが、第74回日米学生会議(JASC)の日本代表の一人に選出され、約4か月間の事前活動を経て、2022年8月に訪米しました。日米の代表学生らと3週間にわたり共同生活をしながら、様々な社会問題等について英語で議論し、その成果を



現地で記念撮影する朝倉さん

ファイナル・フォーラムの場で社会に発信しました。朝倉さんは「3週間にわたる多様な参加者との議論を通じて、自身の『軸』について考えることや自己分析ができました」と振り返りました。

もっと知りたい千葉大学

医療系三学校の記念碑

附属図書館亥鼻分館前の記念碑は、かつてこの地にあった医学部附属看護学校、助産婦学校、診療放射線技師学校が閉校する際、各同窓会がその記憶を留めるため、2002年に建てたものです。そこには1901年開校の県立千葉病院看護法講習所、また県立千葉病院産婆学講習、医学部附属診療工務線技師学校以来の卒業生総数が5,539名にのほることが刻まれています。(大学院国際学術研究院 見城 悌治)



附属図書館亥鼻分館前にある記念碑

INFORMATION

EVERYDAY OPEN CAMPUS! Webオープンキャンパスサイトをリニューアルオープン

オンラインでいつでもどこでも千葉大学と繋がることができる、Webオープンキャンパスサイトをリニューアルオープンしました。松戸キャンパスをCGでリアルに表現した『松戸キャンパス VR OPEN CAMPUS』、亥鼻キャンパスを本学学生と千葉大学マスコットが

ぐるっと回って紹介する動画『亥鼻キャンパスツアー』など、新しいコンテンツが増えました。受験生に限らず、卒業生の方にも楽しんでいただける内容になっていますので、ぜひご覧ください。

WEBオープンキャンパス



亥鼻キャンパスツアー



松戸キャンパス VR OPEN CAMPUS



EVENT

現役学生によるキャンパスガイドツアーを実施しました

2022年4月から10月までの期間、西千葉・亥鼻・松戸・墨田の4キャンパスにおいて、受験生向けに完全予約制で、現役学生によるキャンパスガイドツアーを実施しました。学生ガイドの案内でキャンパスを一周したり、見学後に受験や学生生活について相談できたりと、参加者から大変ご好評をいただきました。なお、ガイド無しの自由見学でしたら予約不要でいつでも可能です。ご見学の際は、本学ウェブサイトにて留意事項をご確認ください。



キャンパスガイドツアーの様子



キャンパスガイドツアーについて



キャンパス自由見学について

INFORMATION

はばたけ! 「全員留学」渡航を伴う留学プログラムを再開

2022年8月、コロナ禍により中止していた渡航留学プログラムを一部再開し、カナダのレジャイナ大学へ28名の学生を派遣しました。理学部2年生の大原江梨花さんは「カナダでの生活は文句なしに大満足でした! 海外での生活で異文化体験をできたことはもちろん、逆に日本の生活を見つめ直すキツカケにもなりました。



カナダのレジャイナ大学プログラムに参加した学生たち(Closing Ceremonyにて"Canada Assistant"や参加者と撮影)

こんなに素晴らしい機会を与えてくれた皆さまに感謝です」と振り返りました。安心安全な渡航の実施により、ますます発展する本学の「全員留学」にご期待ください。

OBOG MESSAGE

小型モーターの新製品開発で、世界を動かす マブチモーター株式会社 滝口 駿也さん

現在の仕事は? 仕事で印象的なエピソードは?

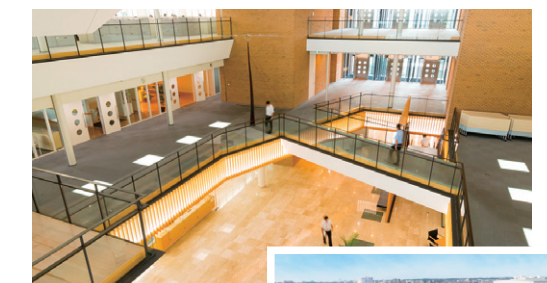
私は車載用モーターの製品開発部門に所属しており、新製品の量産実現を目指して開発業務に取り組んでいます。具体的な内容としては、お客様との打ち合わせから、設計・試作・実験・試作量産ラインの立ち上げに従事しています。開発中の製品で予期しない試験結果が生じた場合は、考えられる原因を一つ一つ地道に検証し、原因特定を行います。そして対策を検討し、設計に反映して、再び試作と実験を繰り返し改善を確認できたとき、エンジニアとしての開発の面白さを実感します。

自分の仕事や会社の好きなところは?

当社は年間約14億個のモーターを全て海外の工場生産し、世界各地に納品しています。そのため営業拠点も世界各地にあります。希望すれば海外に出張・出向してキャリアを積むチャンスがあることも当社の魅力だと思います。一方で、国内拠点は松戸市の本社と印西市の技術研究所だけであり国内転勤がないことも魅力です。

学生へのメッセージ

自動車においては、EV化や自動運転に伴う小型モーターの需要が増加しています。また、産業用途では、搬送ロボットや協調ロボットなどの新興分野でモーターの需要が増加しています。私が担当しているブラシレスモーターでは多くの開発依頼をいただいており、積極的に新機種モーターの開発を進めています。その中で、多くの若手社員が学生時代の経験をベースに成長・活躍しています。世の中になくならない身近な部品であるモーターづくりを通じて世界の人々の生活を豊かにしていく仲間をお待ちしています!



本社内観



本社外観



滝口 駿也 (たきぐち しゅんや) ブラシレスモーター開発部
2016年 工学部機械工学科卒業
2018年 大学院工学研究科人工システム科学専攻修了
2018年 入社、2020年より現職

マブチモーター株式会社 MABUCHI MOTOR
<https://www.mabuchi-motor.co.jp/>

1954年1月18日創立、従業員数836名(2021年12月末日時点)、千葉大(院)OBOG数23名(2022年8月29日時点)、事業内容:国際社会への貢献とその継続的拡大を理念に据えて、自動車電装機器をはじめとした世界中の幅広い分野で小型、軽量、高効率のモーターを提供しています。



CHIBA TOMO

千葉大学マスコット「ニシ」、「イノ」、「マツ」より
ニュースをお届けします！

NEWS

vol.10

CHIBA TOMOものがたり 14時限



ニシ ハロウィンの仮装といえばジャック・オーランタン。黒いマントでカッコよく！

イノ ハロウィンの仮装といえばジャック・オーランタン。ボク似合うかな？

マツ ハロウィンの仮装といえば魔法使い。魔法で新種の花を咲かせてみたい！

CHIBA TOMO とは…
2019年に千葉大学に誕生した、3つのキャンパスをかたどったマスコット、うさぎの「ニシ」、かめの「イノ」、さいの「マツ」の3人組。

ニシ・イノ・マツといつでも一緒♪

皆さんはもう、CHIBA TOMOのオリジナルグッズを手に入れましたか？
グッズの活用例と併せて紹介します！



チバトモぬいぐるみキーホルダー
各880円(税込)



チバトモピンバッジバラ(全7種)
各400円(税込)



チバトモモシール(全10種)
各250円(税込)

チバトモマスクングテープ
350円(税込)



※チバトモのグッズは西千葉キャンパスのインフォメーションセンター(松韻会館1F)で販売しています。
※活用例の写真で使用しているバッグやノートなどは商品ではありません。

● 学生700名に食の支援を行いました

7月15日に、生活協同組合コープみらいと共同で、本学の学生へ食品の支援を行いました。これまでに千葉大学基金に寄せられた寄付金で、千葉県産米やレトルト食品を購入して提供しました。集まった学生たちは袋いっぱいの食品を笑顔で受け取っていました。

このような支援が実現できたのは、寄付者の皆さまからいただいた、温かいご寄付のおかげです。誠にありがとうございました。いただいたご寄付は、学生への奨学金給付や就職支援、課外活動支援などにも活用させていただいており、学生が充実した生活を送るうえで欠かせないものとなっています。引き続き、皆さまのご支援をよろしくお願い申し上げます。



学生からの
お礼のメッセージ
(動画)



● ふるさと納税によりご支援いただけるようになりました

令和4年度より、千葉市へのふるさと納税で千葉大学をご支援いただくことができるようになりました。支援先を千葉大学に指定いただくことで、寄付額の8割が千葉大学へ寄付されます。手続きをすることで、寄付額のうち2千円を超える部分について、限度額の範囲で、ご自身の支払う税金から控除されます。

※本制度へのご寄付に伴う千葉市、千葉大学からの返礼品はございません。



ふるさと納税
によるご寄付は
こちら



● Facebookで情報発信をしています

千葉大学校友会では卒業生・修了生の皆さまをはじめ、在学生や千葉大学を応援してくださる皆さまへ情報発信を行うため、「千葉大学校友会Facebook」を開設していますので、ぜひフォローをお願いします。

校友会Facebook
はこちら



お問い合わせ先 **千葉大学基金室** **メール** kikin@office.chiba-u.jp

043-290-2014 **ホームページ** <https://kikin.chiba-u.ac.jp> [千葉大学基金](#)

ご不明な点がございましたら、遠慮なくお問い合わせください。 **住所** 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33



02 世界最先端の研究から社会貢献まで

学術研究・イノベーション推進機構 (IMO) の機構長でもある藤江研究担当理事に、千葉大学の研究推進について聞くとともに、2022年4月に発足した「国際高等研究基幹」の役割、同年6月に開設したオウンドメディア「CHIBADAI NEXT」の概要について紹介します。



02

06 千葉大学 OBOG インタビュー

障害者や生活困窮者、子どもなどの社会的弱者の支援に取り組み、コンヴィヴィアル (自立共生) な地域社会を目指す OB が登場！



06

08 千葉大学 OBOG インタビュー

FIFA ワールドカップやオリンピックで日本選手団のスポーツドクターを務め、長年にわたりアスリートをサポートしてきた OG が登場！



08

10 研究室訪問

実験を通して新たな免疫システムの発見を目指し、がん免疫療法の開発に取り組む
—大学院医学研究院 先端研究部門 高次機能治療学研究講座
実験免疫学教室 木村 元子 教授—



10

12 TOPICS / もっと知りたい千葉大学

14 CHIBA TOMO NEWS

**ちばだい
プレス** CHIBADAI
PRESS
千葉大学
広報誌

編集・発行 / 千葉大学 広報室
〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1番33号
TEL: 043-251-1111(代表) E-mail: koho-hp@office.chiba-u.jp
ご意見・ご感想をお寄せください

www.chiba-u.ac.jp

[表紙] 南川 舞 (みなみかわ・まい) さん

国際高等研究基幹 (園芸学)
特任助教



この春、国際高等研究基幹の特任助教に着任した南川先生は、次世代のイノベーションの担い手としての活躍が期待される若手研究者の一人です。千葉大学園芸学部を卒業後、大学院園芸学研究科で博士号を取得。日本学術振興会特別研究員として実績を積み重ねて現在に至ります。二児の母でもあり、休日は子ども達と一緒に過ごす時間を楽しんでいるそうです。
(撮影: 西千葉キャンパス 学際研究棟)